

びるっぱ

Vol.428 3

表紙の写真

高知ハビリテーリングセンターの竹あかり
【詳しくはP.7】



医療情報

新型コロナウイルス 感染症について

日本看護協会認定資格取得

日本初！ 放射線科医によるTAVR実施医取得

75th
anniversary
CHIKAMORI
1946~2021

近森病院 近森リハビリテーション病院 近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

ゴールデンウィークは
暦通りの診療体制
です。

4月	28日 (木)	29日 (金) 昭和の日	30日 (土)	5月	1日 (日)	2日 (月)	3日 (火) 憲法記念日	4日 (水) みどりの日	5日 (木) こどもの日	6日 (金)
	通常診療	救急体制での診療				通常診療	救急体制での診療			通常診療



新型コロナウイルス感染症について

1 当院の新型コロナウイルス院内クラスターに関して 2 コロナの2年間とオミクロン株・治療薬

1 当院の新型コロナウイルス院内クラスターに関して (2月18日までの報告)

2月1日に検知されました、新型コロナウイルス感染症のアウトブレイク(クラスター)事例に関して、現時点までの報告を行います。

本題に入る前に、今回の事例では、患者さんおよびそのご家族、また地域の医療機関の皆様にも多大なる負担をおかけしていることを申し訳なく感じております。当院の事例が、今後のクラスター発生抑制の一助になればと考え、現時点での経緯をお示しします。

経緯

2月1日に北館病棟のスタッフ1名が上気道炎症状で外来を受診しました。検査を行ったところ陽性が判明し、その結果を受けて、このスタッフが勤務する病棟の入院患者とスタッフ全員に検査を実施しました。その結果、入院患者17名、スタッフ9名が陽性と判明すると共に、北館の別の2病棟でもそれぞれ1名の患者に発熱が認められ、検査を行ったところ両名とも陽性が判明しました。以上の結果を受けて、クラスターの発生を保健所に連絡し、北館全体で感染の発生が否定できなかったため、同日に北館の全入院患者、全スタッフの検査を追加して行いました。その後、原稿執筆時(2月18日)まで患者さん、職員総勢131名が陽性者となっています。

対策

クラスター検知日の午後には、病院幹部を集めて緊急の対策会議を実施しました。救急受け入れの停止などを決定し、病院全体で「早期にクラスターの終息を図る」を第一の優先課題とする事で一致し、対策を開始しました。これまでコロナ患者さんを受け入れてきた経験から、看護部のみならず、診療支援部、臨床栄養部など、各部署が自ら必要なことを考え、病棟スタッフの割り振り、ゾーニング設営、使い捨て容器での食事提供など、



クラスター発生2月1日当日より救急の受け入れを停止

同日夕方～夜で準備を整える事ができました。患者受け入れの実践を積んでいたことは非常に大きかったと感じています。

また当初は想定していた以上に検査陽性者が非常に多い事、また検査陽性時に無症状である場合や、検査陽性日に症状が出現している例が多い事が判明しました。さらにADLが保たれ、比較的病棟内を動き回れる患者さんの陽性例が多い事など、徐々に感染伝播の経路が想定されてきたことから、当初は各病棟の感染状況に合わせて感染対応を行っていましたが、病棟ごとでの対応では感染制御には不十分であると考え、2月6日までは、北館全ての病棟で統一した感染予防対応を実施出来る様に整備を行い、対策を開始しました。

このような現場の最前線での対応を適時行っていく事と並行して、2月7日からは厚生労働省のクラスター対策班にも介入していただき、疫学的な調査の強化も行っています。



ゾーニング作業する診療支援部スタッフ



管理職対象の会議

現在

2月15日以降からは、新規の陽性者は0名でピークを過ぎ、終息に向かって順調な経過をたどっている状況です。本来の当院の病院機能の再開も徐々に可能な状況になっています。

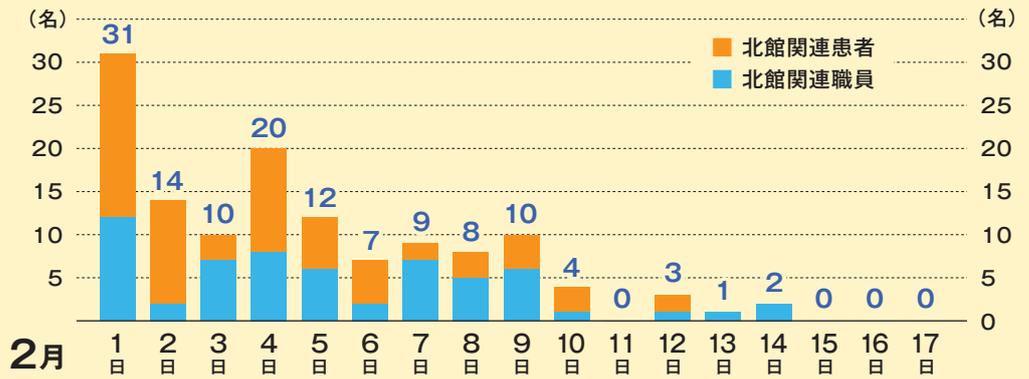
これまで当院では幾度も感染予防に関して注意喚起やサーベイランス、手指消毒や個人防護



近森病院 感染症内科 部長
石田 正之
いしだ まさゆき

北館クラスター関連
陽性者数
(2月18日現在)

●北館関連職員 …… 60名
●入院患者 …… 71名
計 131名



北館病棟

通常



CU(コロナユニット)



具の実技指導などを行い、対策を行ってまいりました。幸い、運良く、これまで多くのコロナ陽性患者さんの診療に当たってきましたが、入院患者さんからの院内発生事例はなく、職員の陽性例は複数ありましたが、二次感染を生じることなく経過してまいりました。

このような成功体験により、今回のオミクロン株がこれまでと比較にならない感染伝播力がある事を理解しつつも、それに併せた感染対策にてこ入れが不十分であった事、年末から高知県全体の陽性者の減少等による、全体的な若干の気の緩み等がクラスター発生の一因になっていると考えられました。加えて、無症状者や症状が軽微な陽性者が多い事も感染流行を早期に検知することの難しさとなり、クラスター

の発生防止、発生してからの早期終息を困難なものにしています。

最後に

現在の流行状況に関して、毎日の様に新規のクラスター事例が報道されている事からもわかるように、どこでも生じる可能性があります。特に医療機関でクラスターが発生した場合、その施設だけの問題にとどまらず、地域医療全体に与える影響が少なくありません。先にも述べたとおり、今回当院の重要な使命である、救命救急医療を制限せざるをえず、その結果、コロナ診療も逼迫していますが、一般急性期医療に関しても大きな影響を与えることになっています。今一度当院の事例を反面教師にもらい、こ



れ以上の地域医療の危機を招かないよう、対応をしていただければと願っております。

当院も、これまでの感染対策をさらに見直し、クラスターからの新たな出発に向けて準備を行っております。今まで以上に感染対策を充実させ、診療を行って参りますのでよろしくお願いいたします。また今回の事例は適時様々な形で発信を行い、終息の際には、最終的な解析も何らかの形で報告させていただきます。



▲ 患者さんの搬送の様子



▲ 北館のスタッフステーション、グリーンゾーンでもN95マスクを着用



▲ いつも人が並んでいたER待合室。救急の受付停止中は、診察室も閑散としていた。

2 コロナの2年間と オミクロン株・治療薬

新型コロナウイルスが発見され、早2年以上の月日が経過しました。現在国内では、オミクロン株が猛威を振るっている最中(原稿執筆中の2月14日の時点)で、高知県でも連日100名以上の新規患者の報告が出ており、新規患者数はこれまでを優に上回っています。

感染力と重症化

オミクロン株は、直近の流行株であったデルタ株に比較して、3~4倍の感染力を持っていると言われており、その感染力の強さは、現在の流行状況からもあきらかです。

一方で重症化に至る割合は少ないと言われており、実際、新規患者に占める重症者の割合は多くありません。しかし、重症化しない訳ではありませんので、陽性者が増えれば、重症者の実数は増えていきます。また重症化が少ない要因の一つとして、ひろくワクチン接種が行われている為に重症化が抑制されている可能性も示唆



されており、重症化を生じる力は決して低下していないという報告もあります。海外でのオミクロン株で重症化に至った例には、ワクチン未接種者が多く含まれており、単に重症化は少ないとは言いきれません。

ワクチン効果

このような状況下で、我々がコロナウイルスと対峙する手段としては、常日頃からの感染予防対策に加えて、ワクチンと治療薬があります。ワクチンに関しては、デルタ株に比較して効果は劣るものの、それでも2回接種で70%程の予防効果が認められており、3回接種ではデルタ株と同等の効果も期待できると報告されています。

それ以外にもワクチンの有用性を示す多くの報告があり、加えてワクチン接種により、Long-COVID(いわゆる後遺症)の合併率も抑制される事が示唆されています。ワクチン接種を行う意義はこれまでと何ら変わることはないと言えます。

新しい治療薬

また治療の面では、中等症Ⅱや重症例に関しての治療は以前からすでにある程度確立されており、それにより治療成績は当初に比べ格段に良くなっています。

一方、軽症・中等症Ⅰまでの患者さんに対しての治療は、これまでは点滴もしくは皮下注射のカクテル抗体(カシリビマブ・



イムデビマブ:ロナプリーブ®)のみでしたが、年末から年明けにかけ、使用できる薬剤の種類が増えてきました。ロナプリーブに続く第二の抗体薬として、注射薬のソトロピマブ(ゼビュディ®)、そして抗ウイルス作用をもつ飲み薬(モルヌピラビル:ラゲプリオ®)も使用する事が出来るようになり、治療の幅が拡大しました。ゼビュディもラゲプリオも重症化リスクを有する患者さんで発症早期(ゼビュディでは7日以内、ラゲプリオでは5日以内)に投与が開始されると、入院や死亡のリスクを低下させるとされており、罹患しても重症化を予防する治療薬が増えたことはとても心強いところです。

これらのお薬を有効に活用していくためには早期の診断が重要であり、検査試薬の不足や薬剤供給体制が不安定であるなど、いまだ課題が残っています。

最後に

この2年あまりの時間で、様々なことがわかり、またウイルスに対抗するための術も増えてきています。それでもなお、重要な事は日頃からの個々の感染予防対策に勝るものはありません。今後も感染予防を図りつつ、一方でどのように日常生活を回復させていくかを一人一人が考え、実行していく時期に入っているのだと思います。

治療薬のまとめ	無症状感染者	軽症	中等症Ⅰ	中等症Ⅱ	重症
	抗体医薬 ウイルスの侵入を防ぐ 発症早期(1週間以内)に投与	カシリビマブ・イムデビマブ(ロナプリーブ)	ソトロピマブ(ゼビュディ)	モルヌピラビル(ラゲプリオ)	ニルマトレルビル・リトナビル(パキロビッド)
抗ウイルス薬 ウイルスが増えるのを抑える 発症早期に投与					外来早期投与にもエビデンス

資格取得

この度、新たに5名が資格を取得しました。近森会グループには、こちらの5名を含め、**専門看護師5名、認定看護師12名、認定看護管理者5名**の資格認定者が在籍しています。



日本看護協会
資格認定

認定看護管理者

管理者としての
これから

近森病院 6階B病棟 看護師長
永野 智恵 ながの ちえ



これからの活動として、自部署の看護の質向上のみならず、認定看護管理者に求められる組織全体のサービス提供体制や質の向上に少しでも貢献できるよう視野と分析力を高め取り組みたいと思います。また、看護師が知識と技術だけでなく看護の視点を養うための環境作りをしていきたいと考えます。

クリティカルケア特定認定看護師

新たな
認定看護師制度

近森病院 ICU病棟 看護師 主任
池澤 友朗 いけざわ ともあき



2021年度より集中ケアと救急看護が合併し、特定行為実践も組み込まれたクリティカルケア認定看護師の制度が開始となりました。今回、その資格を取得することが出来たため報告させていただきます。今後は、急性期領域において、アセスメント力に基づいた高度な看護実践や指導を行えるように日々、努力していきたいと思えます。

心不全看護特定認定看護師

人をみる看護、
想いをつなぐ

近森病院 5階B病棟 看護師
橋村 和樹 はしむら かずき



この度、心不全看護認定看護師の資格を取得しました。心不全の患者さんは、たくさんの努力や工夫をしながら療養生活を送っています。私が大切にしている看護は「人をみる看護」です。患者さんの心に寄り添い、共に悩み、共に考えていく存在で在りたいです。患者さんが、その人らしく生活を続けられるよう支援していきます。

急性・重症患者看護専門看護師

自分らしさを大切に

近森病院 ICU病棟 看護師長
池畠 真由美 いけばたけ まゆみ



この度、急性・重症患者看護専門看護師の資格を取得することができました。クリティカルな状況にある患者さん・ご家族の権利擁護を基軸に、問題解決に向けて「I want」ではなく「We want」の姿勢で取り組むことを大切にしています。リソースの活動を通して成長できるよう頑張りますので、ご指導・ご協力よろしくお願いたします。

コンフォートケアを
大切に

近森病院 ICU病棟 看護師
齋坂 美賀子 さいさか みかこ



クリティカルケア領域での患者さんは生命の危機にあり、多くの苦痛を感じているとされています。そのような患者さんが少しでも安心を感じ、その状況を耐えて回復しようと思えることが重要だと考えています。そのために、患者さん自身が力づけられるコンフォートケアを大切にし、スタッフの皆様と共に良いケアを実践していきたいと思えます。

資格取得

経カテーテル的
大動脈弁置換術(TAVR*)
実施医

*TAVR(TAVI)…経カテーテル的大動脈弁置換術(植え込み術)

日本初!

海外では
放射線科医が実施医になる
制度がないため、
日本初=世界初!?

門前の小僧は
日本初!?

近森病院 放射線科 部長
宮崎 延裕
みやざき のぶひろ

この度 TAVI*実施医(SAPIENシリーズ)を取得致しました。**放射線科医としては日本初**とのことです。

IVR(画像下治療)は主たる業務ですが、同じカテーテル治療でも心臓は門外漢で、自分が術者を担当するとは考えてもおりませんでした。

ステントグラフト治療を心臓血管外科と行っている関係で、TAVIの立ち上げ当初からデバイスの準備とトラブルシューティング担当として手術チームに加わり、道具と流れは把握していたため、「習わぬお経」でもなかったのですが、見るとやるでは大違いの緊張度!安全・確実に手術を終え、TAVIに携わった一つの形として実施医取得ができたのも、ひとえに関係各位の術中サポートの賜物と感謝しております。



学会受賞

第63回 日本呼吸器学会中国・四国地方会
後期研修医優秀演題賞
受賞

演題

急性膿胸症例における、
歯性疾患との関連の検討

第65回 日本呼吸器学会中国・四国地方会
後期研修医セッション
優秀演題賞 受賞

演題

健康成人に発症した、胸腔鏡下気漏
閉鎖術を要する続発性自然気胸を
合併したCOVID-19肺炎の一例

ダブル受賞

おめでとうございます!



後期研修中での
得難い経験

近森病院 呼吸器・感染症内科
三枝 寛理 さえぐさ ひろよし

昨年発表した学会にて左記の演題賞をいただきました。どちらも後期研修中に経験させていただいた症例でした。

今年度より近森病院内科の後期研修医プログラムに所属しております。来年度は近森病院を離れ、福島県と東京都で半年ずつ勉強させていただく予定です。少しでも成長できるように、謙虚に一日一日を大切に精進していきたいと思います。また近森病院に戻ってきた際には皆様と一緒に医療ができればと思います。今後ともよろしくお願い致します。

腹部救急認定医



近森病院 消化器外科 部長
塚田 暁 つかだ あきら

「救急の近森」の 腹部救急を 引っ張っていききたい!

2022年1月より日本腹部救急医学会の腹部救急認定医に認定されました。腹部救急認定医とは、日本腹部救急医学会が腹部救急疾患の診療および腹部手術の周術期管理に関する専門的知識、並びに技術の向上と普及を図るために実施している制度です。腹部救急疾患についての知識と経験に優れ、それを実践し指導や教育に積極的に取り組む者が認定されます。

医療の進歩により、以前はまず手術を行っていた疾患も内視鏡や血管内治療が第一選択とされる疾患も増えてきています。患者さんの状態や背景に応じた最適な治療法の選択、経験、知識等を若手医師へ指導していきたくと考えております。



第32回 日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会 研修医奨励賞セッション 敢闘賞受賞

演題

成人スティル病に対して
トシリズマブ投与後に重症の
薬剤性肝障害を生じた1例

激励のおかげで

初期研修医1年目 浅羽 直
あさば すなお

この度、第32回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会にて敢闘賞を受賞させて頂きました。

現地での発表は初めてで、予想以上の会場の広さにとっても緊張しましたが、引率して下さった先生方の激励のおかげで無事に発表することができました。

今回の発表に関しましてご指導頂きました公文先生、吉田先生、小笠原先生には大変お世話になりました。教えて頂いたことを今後の学会発表に繋げていきたいと思っております。本当にありがとうございました。



研修 受け入れ



近森病院NST3ヶ月研修

研修期間 / 2022年1月1日~3月31日

臨床栄養部 部長 宮島 功 みやじま いさお

2012年より「近森病院NST3ヶ月研修」を実施しています。他病院の管理栄養士の方が当院での3ヶ月の研修を経て、チーム医療の理解と実践、栄養サポートに必要な臨床的な栄養知識や医療専門職として技術の習得を目的としています。2012年より10年間で30名の方が修了されました。2022年1月より3ヶ月間、新たに1名の研修生をお迎えしております。当院の管理栄養士にとって他の栄養サポートについて知る大変に良い機会です。



憧れの 近森病院に来て 内藤 孝子さん ないとう たかこ

兵庫県の総合病院に11年間勤めていました。病院栄養士として働く中、もっと医療にどっぷり浸かりたい、もっと栄養の専門家として治療に貢献したいと思い、スキルアップを目指して「近森病院NST3ヶ月研修」に申し込みました。研修では、職員と同じ環境を準備していただき、病棟担当栄養士とともに行動し、集中病棟のカンファレンスに週2回参加しています。全国に先駆けて管理栄養士の病棟常駐を導入された近森病院でリアルタイムな栄養サポートを学ぶことができ、さらに理事長から医療の基礎的知識を指導していただき、こんなに充実した環境は他にありません。研修を受けて、霧が晴れるように今まで自分が悩んでいたことが解決していきます。もっと早く申し込めればよかった、1年間の研修にすればよかったと後悔しているところです。研修も残りわずかとなりましたが、貴重な時間を無駄にせず、少しでもこちらで臨床経験が積めるように取り組みたいと思います。

高知ハビリテーリングセンターより



人とのつながりが 照らす竹あかり

ファミリー高知
高知ハビリテーリングセンター
生活・訓練部 部長
島崎 義広 しまさき よしひろ



今回春野の自然を活かした竹あかりを企画しました。県内で先駆的に取り組まれている芸西村企画振興課の皆様から丁寧にご指導いただき、チェーンソー免許を持つしごと・生活サポートセンターウェブの中越副センター長と森矢さんがハビリの裏山から竹を切り出し、節抜きやバリ取りは職員が業務の合間に準備しました。参加者は様々なデザインの型紙を自由に貼り合わせ、ドリルで穴を開け模様を描きます。年齢や障害の程度に関わらず制作に参加し、特にドリルでの穴開けは時間を忘れるほど集中されていました。思い思いのデザインを施した竹あかりは一つとして同じ物が無く、その人らしさを表現していました。竹は一本一本が独立しているように見えますが、地面の下ではひとつの根っこでつながっています。来年度は地域の方とつながるようなイベントにしたいと思います。



ドリルで模様を描く参加者と
支える職員



近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

自立と自律

近森病院 理学療法科 科長
田中 健太郎
たなか けんたろう



セラピストは日々目の前の患者さんがどうすれば自立して活動できるか、を常に考え行動しています。そのためには我々自身が自律した行動を心掛ける必要があります。組織の課題は山積しておりますが、患者さんと高知の地域医療のための自律した組織づくりを目指し、努めてまいります。よろしくお願いいたします。

どんな時でも笑顔を決やさず

近森リハビリテーション病院
4階病棟東 看護師 主任
武田 真弥 たけだ まみ



日々周囲の方に色々なことを教えて頂きながら、コミュニケーション・チームワークの大切さを感じています。

これからも、コミュニケーションを取りながら病棟や看護のことをスタッフと共に考え目標を共有し助け合っているよう頑張りたいです。また、どんな時でも笑顔を決やさず柔軟性を持って取り組んで行きたいと思います。

主任としての覚悟

高知ハビリテーリングセンター
児童・地域部
はるのハビリホーム 主任
吉野 竜二
よしの りゅうじ

はるのハビリホームの主任となり、関係機関との連携を強化し、利用者が安心・安全に生活できる環境を提供できればと思います。

自身を成長させてくれる上司・職員がいることを忘れず、スキルアップし、頼りがいのある主任となれればと思います。何卒、温かいご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



熱烈応援 昇格人事

心と身体のターンオーバー

近森病院 皮膚科 部長 **高田 智也**
たかた ともや

この度、皮膚科部長を拝命しました高田智也です。今後もフットワークの軽い診療を行いながら、仕事の幅を増やしていきたいと考えております。

ターンオーバーによって常に新しく、健全な状態であろうとする皮膚のように、日々新しく、出来るだけ健全な身で在り続けたいと思います。(ヨガを始めました) これからもよろしくお祈りします!

- 【出身大学】** 高知医科大学 2002年卒業
- 【主に担当する疾患・手技】** 皮膚科一般、抗がん剤による皮膚障害、皮膚科小手術
- 【認定資格】**
 - 日本皮膚科学会・専門医
 - 医学博士

過ぎたるは猶なお…

近森病院 心臓血管外科 科長 **衣笠 由祐**
きぬがさ ゆうすけ

非常に高齢の患者さんが増え、手術適応に悩むことも多くなってきました。身体状態次第では積極的すぎる治療では負担がかかりすぎるし、かといって消極的な治療を選べば良いかと言われれば、もちろんそうではないでしょう。

また、外科医としての自らの能力も当然加味しなくてはなりません。まだまだ道半ばの私にとって、自身の能力以上の「過ぎたる」ことをしようとしていないか、自問する日々です。

患者さんにとって、最適な診療をできるように日々研鑽を続けていきたいと思っております。

- 【出身大学】** 高知大学 2012年卒業
- 【主に担当する疾患・手技】** 成人心臓、大血管、末梢血管
- 【認定資格】**
 - 日本外科学会・外科専門医
 - 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構・心臓血管外科専門医
 - 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会・TAVI実施医
 - 関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会・腹部ステントグラフト実施医

出世魚 **菅根 裕紀** すがね ひろき

「とどのつまり」という成句をご存知でしょうか? 「結局、所詮」というネガティブな意味です。「とど」は成長したボラという出世魚の名称で、ボラは出世してもブリではなく、所詮ボラであることがこの言葉の語源です。人間もただ出世することより、中身が重要と考えます。最終的に「とど」とならないよう、中身を磨きます。

- 【出身大学】** 高知大学 2012年卒業
- 【主に担当する疾患・手技】** PCI、TAVI、WATCHMAN、MitraClip
- 【認定資格】**
 - 日本内科学会・認定内科医
 - 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会・TAVI指導医
 - 日本循環器学会・循環器専門医
 - 日本心血管インターベンション治療学会・認定医

ハッスル研修医

1年を振り返って

初期研修医1年目
廣瀬 聡一郎
ひろせ そういちろう



「メイン」「ゴプロツッカ」「温かいF」。言葉に頭を抱えた4月から1年が経とうとしています。あと1年しか研修医を名乗れない現実に驚きを隠せませんが、仕事にも慣れて楽しく日々を過ごしています。

本から学ぶことも大切だとは思いますが、自分の場合は臨床現場で直接教えていただいたことが響きます。熱心な先生方、コメディカルの方々と働くことができ、近森病院に就職してよかったと思っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

余談ですが、研修医の同期には「カワセ ヒロヤ」、「タナカ ソウイチロウ」がいます。僕は「ヒロセ ソウイチロウ」と言います。同じ身長、スクラブを着ています。よく似ています。紛らわしい名前、身なりに頭を抱えさせてしまうかもしれませんが、病棟で見かけた際には名前前で呼んでいただけると人一倍嬉しさを噛み締めますので、何卒よろしくお願い致します。

残り1年、お役に立てられるよう精一杯頑張ります。



リレーエッセイ

10年ぶりのテニス

臨床検査部 臨床検査技師
濱田 桃子

はまだ ももこ



私は小さい頃から運動が苦手なのですが、1つだけ続けていたスポーツがあります。それはテニスです。小3から高2の9年間ほぼ毎日練習していましたが大学受験後はテニスをするのがなくなり、気付いたら10年以上経っていました。

「最近運動不足だから体を動かさないと…」と思っていたところ友達がテニスに誘ってくれ、思い切ってやって

みることに。かなり久しぶりだったので体はイメージ通り動かず、すぐに息切れ。体力的にはしんどかったのですが不思議ととても楽しく、リフレッシュすることができました。運動することの大切さを実感したので、体力をつけ、健康でいるためにも続けていきたいと思いました。

テニスは試合を観るのも好きでウィンブルドン選手権をよく見えています。テレビでしか見たことがないのでいつかイギリスに行って、観戦することがひそかな夢です。今はコロナの影響で海外旅行は難しいですが落ち着いたら実現したいと思っています。



FREE 私の○○ まるまる ○○にフリーワードを入れて語っていただきました

私の「お弁当」

近森病院 手術室
看護師

千崎 龍司

せんざき りゅうじ



私は自分で弁当を作り持参しています。なぜかというと財布にも優しく栄養や健康面から見ても手作り弁当の方が良いと考えているからです。私の手作り弁当のモットーである「作るのに5分以上かけない」を大切に、自分に無理なく弁当作りに時間を割きすぎないように気をつけながら作ることを心がけています。



弁当を忘れてカップ麺やご飯を買った日にはパワーが出ない気がします。これからも弁当を作り、スタミナを付けて仕事に励みたいと思います。



私の趣味

いつか娘と一緒に

近森リハビリテーション病院
医療福祉部
ソーシャルワーカー

畠山 唯衣

はたけやま ゆい



3年前までは毎年よさこい祭りに踊り子として参加をしていました。初めて参加したのは小学校3年生のときです。昔から音楽・ダンスが好きであり、小学生のときに習い事でダンスを始めたことをきっかけによさこい祭りに興味を持ち、初めて参加した年からよさこいに夢中になっていました。1番嬉しかった思い出は、高校生のときに新しく発足したチームで踊り、初出場での受賞、後夜祭を踊れた年でした。受賞発表のときには思わず涙が溢れました。また、私には現在1歳となる娘がいます。幼児向け番組でみんなでダンスをする音楽が流れるとテレビの真似をして踊ってみたり、体を上下に揺らしたりしている姿を見ると、やっぱり私の血を引いていると思います。いつか娘と一緒によさこい祭りで踊ることが私の夢となっています。この2年間開催中止となっているよさこい祭りですが、コロナが落ち着き再開したときにはまた暑い夏に参加したいです。



歳時記



節分
(2月3日)



総務課 田村さんちの鬼退治

鬼はそと～!

保育園で作った鬼の冠をかぶり、

勇ましく立ち向かう晴彦君2歳



鬼退治後の満面の笑み。福が来ました!



退職

今まで
ありがとう
ございました

中西所長、村田師長 退職にあたって

看護部 岡本 充子
統括看護部長 おかもと じゅんこ

AMORI HOSPITAL



左から村田美和看護師長、中西洋子所長(看護師長)、筆者

中西所長は、高齢者支援センターでの経験を経て、2010年より訪問看護ステーションちかもりの所長として勤務してこられました。所長として常に利用者、そしてそのご家族の思いに寄り添い、住み慣れた地域で安心して生活できることを目標に取り組んでこられました。

村田師長は、2011年より地域医療連携センターで前方連携、ベッドコントロールの役割を担ってくれました。この間、近森病院の5か年計画で病棟編成の変更や引っ越しを繰り返し、苦労されたと思います。満床で入院ベッドの確保が難しい時でも、村田師長が何とかしてくれると思わせる存在でした。

長年にわたり大切な役割を担ってこられたお二人が退職されることはとても残念なことではありますが、お二人が残してくれたものを活かし、在宅部門、地域連携部門がさらに発展していけるように後任者と共に頑張っていきたいと思えます。

中西所長、村田師長、長い間、本当にありがとうございました。

こうち食支援ネット様へ災害備蓄食寄付

近森病院では災害時の食事として、パンやお粥、アルファ化米などを患者さんと職員分で約3日分備蓄しております。今回、その一部であるわかめご飯約1,500食を、こうち食支援ネット様に寄贈いたしました。これらは食支援ネット様を通じて、必要とされる方々のもとに届けられます。県下の食支援活動のお役に立てばうれしいです。



食支援ネット様のスタッフへ備蓄食を渡す災害対策委員会 井原委員長、井原から左へ、内山臨床栄養部副部長、三谷危機管理部長、楠瀬災害対策室長



看護学校通信

後援会より学生全員分の防災ヘルメット寄贈

近森病院附属
看護学校 事務長代理 中山 潤一
なかやま じゅんいち



本校では学生全員用の防災ヘルメットの備え付けについて検討をしておりましたが、この度、看護学校後援会より学生全員分の防災ヘルメットをご寄贈いただきました。

寄贈して頂きましたヘルメットは折りたたみが可能で、普段は各学生の机の脇に折りたたんで保管することが出来ます。

本年度は、学校の備蓄食や備蓄水の入れ替え作業も予定をしておりましたが、こちらも11月には作業が完了しております。

寄贈して頂いた防災ヘルメットは災害に備え、大切に使用させていただきます。この度は、後援会よりご支援を賜り深くお礼申し上げます。



編集室通信

雪が降ることが少ない高知市の過去最大積雪量は、昭和62年1月13日の10cmであるとニュースでみた。当時小学生だったが、授業が休みになり、校庭で雪遊びをしたのを覚えている。南国育ちが影響してか、ウィンタースポーツへの憧れは強い。もう4年が過ぎたのかと感傷に耽りながら、北京オリンピックを熱心に観ている。

陽

診療数 令和4年1月

— 電子カルテ管理課 —

● 近森会グループ

外来患者数 16,718人
新入院患者数 1,022人
退院患者数 898人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数 13.83日
地域医療支援病院 紹介率 86.70%
地域医療支援病院 逆紹介率 285.49%
救急車搬入件数 581件
うち入院件数 329件
手術件数 510件
うち手術室実施 334件
うち全身麻酔件数 234件

内山里美

Satomi Uchiyama

臨床栄養部
栄養サポートチーム 副部長
日本静脈経腸栄養学会認定
NST専門療法士・栄養経営士・
管理栄養士

聞き手／ひろっぱ編集部



仕事も趣味も全力投球！
スタッフを大らかに見守る
やさしきリーダー

早く寝て、早く起きる

起床は早朝5時。朝はゆっくりと準備や家の用事をこなす。その合間にYouTubeを見ながらヨガをするのが習慣。「それは理想的でかっこいい」と伝えると「そんなことはないですよ。もうね、パソコンの仕事が多いので、肩が上がりなくなって柔軟体操しなきゃと思って！本当にカッチカチなので」と、きどらない言葉で笑いを誘った。

「私は要領の良い方ではなくて、以前は休みでも仕事のことを考えることもあり、バランスを上手にとっている人をまねてみよう」と。管理職としても、スタッフにプライベートを大切にしてもらいたいと願う立場ゆえ、自らもオンオフの切り替えに努めているようだ。

リフレッシュ方法は、なんとといってもサーフィン。シーズンには毎週黒潮町まで自走し海遊びを楽しむ。潮風を浴びながら波を滑る感覚は最高の気分転換だろう。さらに帰宅後は、お酒で喉を潤しつつ作り置き惣菜などを料理するそうで「コロナ禍の休日の最高の



贅沢!」としみじみ。

内山副部長のもう一つの趣味はジギング。「釣りたいの魚の美味しさは別格!釣った人にしか味わえない特権です」と、マスク上の大きな目が一回り大きく輝いた。もちろん食(栄養学)のエキスパート。「高知の食材はポテンシャルが高いです。食材マニアには天国ですよ」と、食べるのも作るのも本当に好きなのが伝わってくる。ちなみにお酒は、ワイン、日本酒、ウイスキー、たまに焼酎など(ほとんど網羅だ)を愛好する。この道も、同じく食とお酒を愛する理事長先生をはじめ近森の先輩から習ったそうで造詣が深くなっているようだ。

ベッドサイドの管理栄養士に憧れて

出身は岡山県。母の料理の手伝いやお菓子作りが好きな少女だったという。やがて栄養学に興味を抱き、進学してはじめてNSTの存在を知った。病棟で活躍する管理栄養士こそが目指す道と決意し、全国に先駆けてNSTに取り組んでいた近森病院へ入局した。当時は近森にNSTができて1年目で、まさに近森NSTの形成とともに歩み続け、現在は臨床栄養部の副部長として後輩指導にあたる立場となった。



直販所を巡り、旬や珍しい食材を探しては、お酒との組み合わせを妄想するという。こちらは、ロマネスコ(イタリア発おしゃれ野菜)のキッシュと、ふきのとうの天ぷら(ビールとともに)。

支えられ、支える そんなチームへ

「うちの部署はどのスタッフも志が高く、驚くほど良いアイデアを出してくれます。みんな自分にはないものを持っていてすごいなと感心しています。支えてもらっている方が大きいですね」と感謝と賛辞を送る。日ごろからスタッフの良い部分を見つけ、後方支援に努めるリーダー像が目につく。

約1時間の取材からも、細やかな配慮を感じるバランス力が伝わってきた。前にも出でなく、引くでなく絶妙な加減で相槌をうち楽しい会話や物事を進めていく。これが内山副部長の魅力であり、部署を超え信頼される理由なのだ。これからも内山流、縁の下の力持ちリーダー力で臨床栄養部をまとめ、近森病院のチーム医療の一翼を担っていくのだろう。

